

「2022年度中国・浙江大学スプリングスクール（オンライン）派遣参加報告書」

京都大学総合人間学部4年 坂本竜太郎

2月27日から3月10日までの2週間、オンラインでのスプリングスクールに参加しました。事前のオンライン面談の内容などを元として語学レベルごとにクラス分けが行われ、クラス単位で講義が行われました。日本からは東京大学・京都大学の二校から参加しましたが、同じクラスには欧州や東南アジアなどの地域からより長い期間（我々の修了後も受講を続ける）参加する学生も多数居ました。

講義は毎日午後1コマ95分×2コマで、日によってその前後に中国や浙江に関する文化紹介や、複数のテーマから1つを選択して自ら中国語で発表し文法指導を受けるチュートリングなどが設定されていました。2コマの内容はクラスによって違うようでしたが、私の所属した2-1班では、「精読II（文法）」が週5コマ、「口語II（スピーキング）」と「聴力II（リスニング）」がそれぞれ週2コマ設定されていました。合計週9コマで10コマに満たないのは、金曜が「精読II」1コマだけであった為です。事前に用意された教科書（のコピー）を元にして講義が進められ、各講義間で習得する語彙や文法用語に共通性もありました。（京都大学での外国語授業と比較して）宿題や個人での発表、音読含め、全体的にただ講義を受動的に甘受するのではなく、自ら率先して主体的に参加することが非常に強く求められていた印象があります。一人一人の基本的に授業は全て中国語で、一部補足的に英語が用いられる程度でした。私自身はほとんど中国語初学者に近いレベルの為理解は非常に難しかったです、何とかしがみついた2週間でした。

オンラインであったため交流の相手は限定されていましたが、英語や中国語を用いて長時間かつ様々な話題で会話する経験を得たことで自らの語学能力のレベルを再確認すると共に、その未熟さに対する危機感を覚えることができました。特にリスニング・リーディング能力や語彙レベルの不足は強く感じる事となりました。教員や他の生徒を含め、自分よりも語学的に優秀な人材と触れ合うことによって、克己心を強く刺激されましたとも感じています。

私は主として古代日本語・日本史を修めており、その中で周縁地域である中国地域の現代語である中国語により深く親しもうという思いが動機の1つとなって、今回のスプリングスクールに参加させていただきました。今のところ今回のスプリングスクールが進路そのものには目に見える影響を与えたということはないですが、今後の選択肢として中国やその他の地域が視野に入って来たかなという印象はあります。その場合生じるであろう現時点でのハードルもいくらか具体的に実感を伴って想定できるようになったことは、中々得難い経験だったかなと考えています。